

課題の概要

- 地域再生人材養成ユニット名 「社会基盤メンテナンスエキスパート養成」
- 総括責任者名 「森 秀樹」
- 提案機関名 「岐阜大学」

地域の現状と地域再生に向けた取組状況

岐阜県では、多発する自然災害を被る社会資本の傷みの補修だけでなく、既存社会資本の老朽化の整備・維持管理を支えるべき県内建設業界の疲弊が大きな問題である。解決には、行政と業界双方の技術力を向上させる取り組みが最も不可欠な課題と言える。これまでも地域の要求に応じて、岐阜大学では「社会人のための教育」、県では「企業との連携や新/異分野への進出」、建設業においては「再生と再編」、加えて「わが国初の産官学連携研究所の創設」などに取り組んできた。さらなる発展のためには、社会資本に従事する“人”を作る事に真剣に取り組む事が重要である。岐阜大学・岐阜県・県内建設業界では、これまでに以下のような取り組みを行ってきた。

- ・ 県内建設業界から、地元技術者の「学び直し」に対する強い要望書を受理
- ・ 地元自治体（岐阜県）の全面的協力体制
- ・ 平成14年から産官学連携による岐阜社会基盤研究所を設置し、成果として橋梁に関するアセットマネジメントシステムを他県に先駆けて運用
- ・ 岐阜大学に、全国初のアセットマネジメントに関する寄附講座を開設（平成19年10月から）

地域再生人材創出構想

養成手法：岐阜大学に「社会資本アセットマネジメント技術研究センター」を設立し、「社会基盤メンテナンスエキスパート養成ユニット」を開設する。養成ユニットでは、短期集中カリキュラムにおいて、岐阜県および県内建設業界それぞれの組織の技術者が、所定の科目を履修することにより、共通の高度な知識を持った総合技術者（社会基盤メンテナンスエキスパート：ME）を養成する。カリキュラムでは、以下の3つの専門科目を提供する。

- a) アセットマネジメントに関する基礎科目（座学）
- b) 社会基盤設計実務（演習）
- c) 点検・施工・維持管理実務（実習）

達成目標：社会資本の整備・維持管理を計画・設計・施工/実施できる総合技術者（ME）を5年間で100名輩出する。ここでいう総合技術者（ME）は、以下に示す内容の資格認定試験（筆記試験とプレゼンテーション試験）に合格し、「社会資本アセットマネジメント技術研究センター」により認定された技術者をいう。

- ・ 上述した a)～c) の3つの専門科目すべての知識を習得する
- ・ 実務において専門知識を活用して効率的な社会基盤のアセットマネジメントを行う
- ・ 地域の再生に主体的に貢献できる能力を有する

行政（発注者）と業界（受注者）の双方が総合的な技術力を保有することで、合理的な発注計画、高品質な整備を通じた受注が可能となり、「安全・安心な県土の保全」と「地域の活性化」を図る。

自治体との連携・地域再生の観点

連携する自治体である岐阜県は、「岐阜県建設業再生プラン」のひとつとして、「県民の安全・安心」「活力ある地域づくり」を実現できる技術者を育成するためのセミナーなどを企画開催している。また、産官学協働で「岐阜社会基盤研究所」を設立し、県内建設業界の発展のために活発に活動しながら、地域特有の問題に地元密着で対応できる体制を整えている。一方、岐阜大学は、地域の要求に応えられる総合技術者（ME）を輩出できる ME 養成ユニットとして、「社会資本アセットマネジメント技術研究センター」を設立する。そのための教育プログラムや寄附講座は既設されている。県内建設業界・岐阜県・岐阜大学の連携の下、ME を取得した発注者・受注者により、社会資本の整備・維持管理だけでなく地域再生を支え、技術力・耐力のある建設業再生に貢献する。

また、地域において安定的に社会資本が供用されることは、単に地域の物流を担うだけでなく、産業・観光・福祉・教育など地域を支える全ての活動が安心して継続的に営まれることを意味し、地域の再生・活性化に大いに資することとなる。

ミッションステートメントの概要

社会資本の整備・維持管理を計画・設計・実施できる総合技術者（ME）を、中間時（3年目）には50名、終了時（5年目）には100名輩出する。県の ME は「合理的な長/中/短期の整備・維持管理計画」と「適切な技術者の質・実績・地域貢献度等の評価による入札契約制度」から発注を計画し、建設業界の ME は「中心となって実施体制による高品質な整備」を通じた受注をする。総じて「安全・安心な県土の保全」と「建設業界の再生を通じた地域の活性化」を目指す。